

# 明日を支える

道総研建築研究本部

2018

## 研究・活動報告 ⑨

本格的な人口減少社会を迎える中、これからのまちづくりには知恵と戦略を持った市町村職員が求められています。

市町村職員は、首長のリーダーシップのもと将来像を明確に描き、地域の企業・団体・個人と連携しながらまちづくりを中心的に担うべき存在です。実際はそれぞれの部署で日々の業務に追われ、将来像を見据えることや客観的にデータを分析して戦略や施策を考える機会は少なく、前年踏襲や先進事例を倣う施策になってしまっていることもあります。しかし、他の市町村で成功しても同じく施策が通用するとは限り

ません。例えば、賃貸住宅の割合や高齢者施設の空き状況、交通の便や出生率など市町村により特性はさまざまです。実際に合った施策が必要とされています。

昨年度から開催している「道総研まちづくり塾」は、市町村職員の方々にわがまちを客観的・科学的に見つめ、まちづくりの戦略を自ら考えていただく機会としてスタートしました。受講者は、普段の業務と異なる視点に立った専門的講義を受けて、客観的にデータを分析し、まちの強みや課題を理解した上で5年後の将来像や解決策を考えます。その一連の流れ

# ことしも「まちづくり塾」

企画調整部企画課 11月6－8日に



の中から、日常業務の先にある将来像を視野に入れた思考を身に付け、まちづくりに反映していた

本年度は11月6日（火）から8日（木曜日）

# 戦略の検討進め共有へ

までの日程で開塾します。1日目は、基調講義と外部講師による地域経営に関する特別講義、受講者も参加する全体討議から成り、開塾の趣旨を受講者全員で共有します。2日目は、建築に限らない多岐にわたる分野で道総研研究員から講義を受けた後、市町村ごとに道総研職員と協働で客観的データの理解、課題の抽出、まちづくり戦略の検討を進めます。3日目には、検討したまちづくり戦略を発表し、他の受講者や道総研職員などと講評・検討していきます。

昨年度の受講者からは「自らのまちについて考える職員を育てる内容である」「普段の業務では感じることのできない視点など収穫が多かった」「自分はいないかもしれない5年後という長いスパンで将来を見据えるいい経験となった」などの声をいただきました。

「道総研まちづくり塾」は、公設試験研究機関である私ども道総研にとっても、研究成果を普及するだけでなく市町村とのネットワークをつくる貴重な機会ともなっています。実際に、昨年度の受講自治体とは本年度いくつかの新たな取り組みを開始しました。

少数精鋭でまちづくりをじっくりと議論できる3日間です。ご関心のある市町村職員は、建築研究本部企画課、電話0166(66)4217までお問い合わせください。